

1 需給見通し

農林水産省は、「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」（昭和40年法律第109号）により、四半期ごとに砂糖および異性化糖の需給見通しを公表している。令和6年9月に公表した「令和6砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第1回）」の概要は、次の通り。

令和6砂糖年度（10月～翌9月）の見通し

【砂糖】

総消費量：178万6000トン（前年度比0.4%増）
 総供給量：178万3000トン（同2.9%増）

【加糖調製品】

消費量および供給量：37万トン（同2.2%増）

【異性化糖】

消費量および供給量：78万トン（同0.1%増）

（1）砂糖の消費量

令和6砂糖年度（10月～翌9月）の砂糖の消費量は、178万6000トン（前年度比0.4%増）と見通している（表1）。内訳を見ると、増加の要因として引き続きインバウンド需要の増加など人流増に伴う経済活動の回復が見込まれる一方で、減少の要

因として、10月に多くの品目の値上げが予想されるなど物価高の影響が想定されることから、分みつ糖の消費量は175万トン（同0.4%増）と見通している。含みつ糖の消費量は近年の消費動向などを勘案し、3万6000トン（同2.9%増）と見通している。

表1 令和6砂糖年度における砂糖の需給見通し

（単位：千トン）

		令和5砂糖年度 （実績見込み）	令和6砂糖年度					合計
			10月-12月	1月-3月	4月-6月	7月-9月		
消費量	分みつ糖	1,743	461.3	409.4	440.3	439.0	1,750	
	含みつ糖	35	7.1	11.2	9.5	7.7	36	
	合計	1,778	468.4	420.6	449.8	446.7	1,786	
供給量	国内産糖	分みつ糖	575	353.2	287.3	11.5	-	652
		含みつ糖	8	1.3	7.4	0.8	-	9
		小計	583	354.5	294.7	12.3	-	661
	輸入糖	分みつ糖	1,142	282.0	192.7	330.9	309.1	1,115
		含みつ糖	7	1.3	2.5	2.0	0.9	7
		小計	1,149	283.3	195.2	332.9	310.0	1,121
	合計	分みつ糖	1,717	635.2	480.0	342.4	309.1	1,767
		含みつ糖	15	2.6	9.9	2.8	0.9	16
		小計	1,733	637.7	489.9	345.2	310.0	1,783
	期末在庫		304	473.6	542.9	438.3	301.6	302

資料：農林水産省「令和6砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第1回）」

注1：分みつ糖は精糖ベースの数量、含みつ糖は製品ベースの数量である。

注2：輸入糖の分みつ糖供給量は、機構売買数量である。

（2）砂糖の供給量

令和6砂糖年度の砂糖の供給量は、178万3000トン（前年度比2.9%増）と見通している。内訳を見ると、分みつ糖の供給量は176万7000トン（同

2.9%増）、含みつ糖は1万6000トン（同6.7%増）と見通している。

国内産糖（分みつ糖）の供給量は、てん菜糖については、6年産のてん菜の作付面積が前年産と比べ

4.4%（2234ヘクタール）減少した。作柄については、気温が高く推移し、生育は平年より早く進んでおり、現時点ではおおむね平年並みから平年をやや上回る程度と見込んでいる一方、褐斑病^{かっぼん}の発生が全道各地で確認されており、9月の気温が平年より高い予報であることから、その発生量は平年より多いと見込んでいる。産糖量は52万2000トン（前年産比16.6%増）、供給量は52万1000トン（精製糖換算〈以下同じ〉。前年度比16.6%増）と見通している。甘しや糖については、6年産のサトウキビの収穫面積が前年産に比べ1.1%（238ヘクタール）増加した。作柄については、鹿児島県における台風10号の被害の影響がみられるものの、一部の島において梅雨以降の干ばつ傾向からの回復が見られることから、現時点ではおおむね平年並みの生育と見込んでいる。産糖量は13万7000トン（前年産比2.2%増）、供給量は13万1000トン（前年度比2.2%増）と見通している。

（3）加糖調製品の需給

令和6砂糖年度^{（実績見込み）}の加糖調製品の消費量は、輸入価格の下落は見込まれるものの、昨年、一昨年的大幅減少からの輸入量の戻りは限定的であると見込まれることから、37万トン（前年度比2.2%増）と見通している（表2）。また、供給量は、消費量に見合った量が供給されると見通している。

表2 令和6砂糖年度における加糖調製品の需給見通し

(単位：千トン)

	令和5砂糖年度 (実績見込み)	令和6砂糖年度				
		10月-12月	1月-3月	4月-6月	7月-9月	合計
消費量	362	89.2	88.4	90.8	102.0	370
供給量	362	89.2	88.4	90.8	102.0	370

資料：農林水産省「令和6砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第1回）」
 注1：改正糖価調整法（平成30年施行）に基づき調整金の対象とされた加糖調製品を対象としている。
 注2：消費量は対象となる加糖調製品の輸入量（財務省貿易統計より算出）を踏まえて見通しており、供給量は消費量に見合った量が供給されるものとして見通している。
 注3：令和6砂糖年度の消費量は、令和5砂糖年度の輸入実績を踏まえて見通している。

（4）異性化糖の需給

令和6砂糖年度の異性化糖の消費量は、近年の消費動向を踏まえ、78万トン（前年度比0.1%増）と見通している（表3）。また、供給量は、消費量に見合った量が供給されると見通している。

表3 令和6砂糖年度における異性化糖の需給見通し

(単位：千トン)

	令和5砂糖年度 (実績見込み)	令和6砂糖年度				
		10月-12月	1月-3月	4月-6月	7月-9月	合計
消費量	779	174.3	174.8	217.6	213.2	780
供給量	779	174.3	174.8	217.6	213.2	780

資料：農林水産省「令和6砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第1回）」
 注：標準異性化糖（果糖55%ものの固形ベース）に換算した数量である。

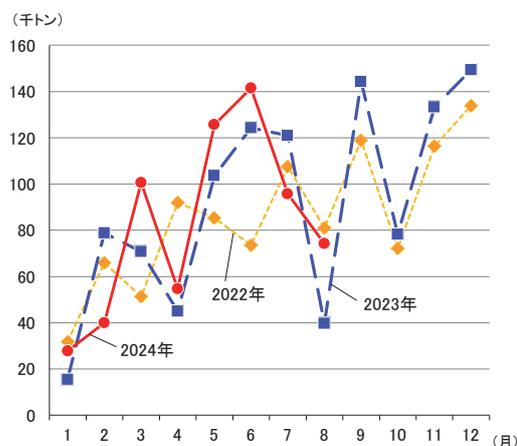
2 輸入動向

【粗糖の輸入動向】

8月の輸入量は前年同月から大幅に増加

財務省「貿易統計」によると、2024年8月の甘しや糖・分みつ糖（HSコード1701.14-110）および甘しや糖・その他（同1701.14-200の豪州）の輸入量は、7万4188トン（前年同月比86.7%増、前月比22.4%減）であった（図1）。

図1 粗糖の輸入量の推移

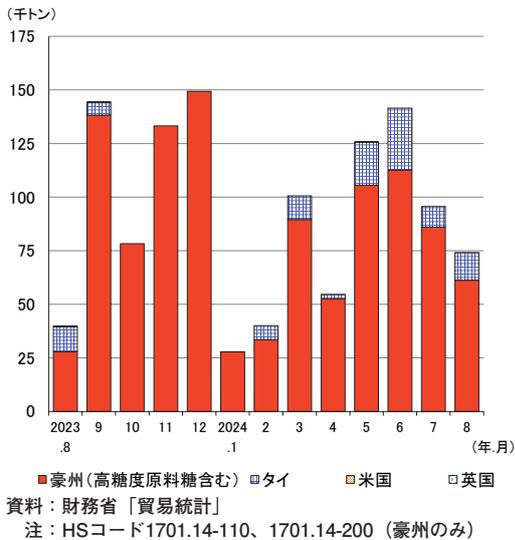


資料：財務省「貿易統計」
 注：HSコード1701.14-110、1701.14-200（豪州のみ）

輸入先は甘しや糖・分みつ糖についてはタイ、甘しや糖・その他については豪州で、国・地域別の輸入量は次の通りであった（図2）。

タイ 1万2950トン
 （前年同月比9.1%増、前月比34.2%増）
 豪州 6万1238トン
 （同2.2倍、同28.8%減）

図2 粗糖の国・地域別輸入量の推移

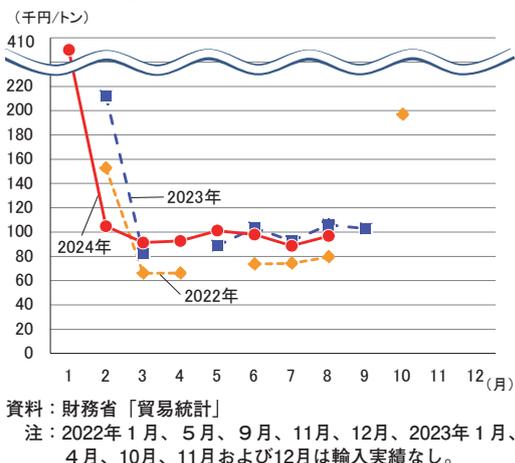


2024年8月の甘しや糖・分みつ糖の1トン当たりの輸入価格は、9万6720円（前年同月比8.8%安、前月比9.1%高）であった（図3）。

国・地域別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

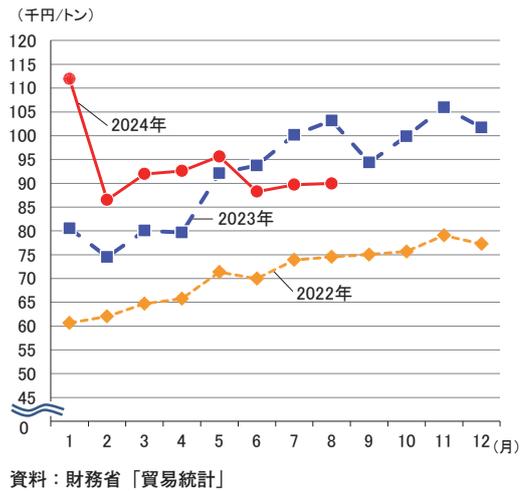
タイ 9万6720円
 （前年同月比8.7%安、前月比10.8%高）

図3 粗糖（HSコード1701.14-110）の輸入価格の推移



また、同月における甘しや糖・その他の豪州からの高糖度原料糖の1トン当たりの輸入価格は、8万9961円（前年同月比12.8%安、前月比0.3%高）であった（図4）。

図4 高糖度原料糖（HSコード1701.14-200の豪州）の輸入価格の推移



【含みつ糖の輸入動向】

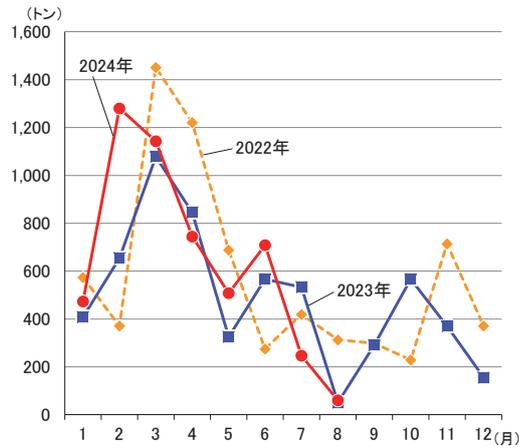
8月の輸入量は前年同月から大幅に増加

財務省「貿易統計」によると、2024年8月の含みつ糖（HSコード 1701.13-000、1701.14-190）の輸入量は、60トン（前年同月比17.6%増、前月比75.7%減）であった（図5）。

輸入先は中国、フィリピンおよびインドで、国・地域別の輸入量は次の通りであった（図6）。

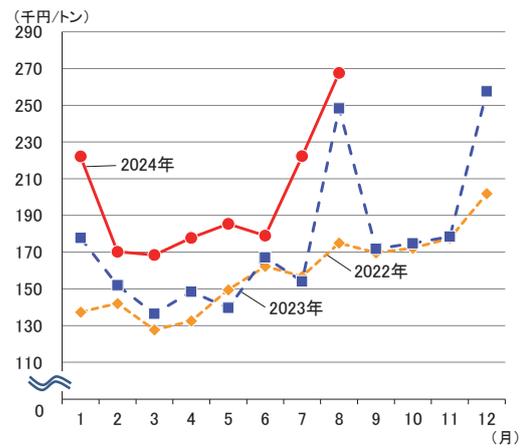
中国 36トン
 （前年同月比5.3%減、前月比82.8%減）
 フィリピン 23トン
 （同76.9%増、同34.3%減）
 インド 1トン
 （前年同月輸入実績なし、同50.0%減）

図5 含みつ糖の輸入量の推移



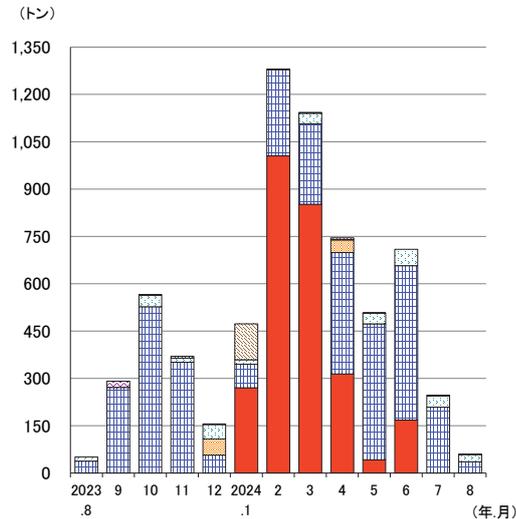
資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

図7 含みつ糖の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

図6 含みつ糖の国・地域別輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

2024年8月の1トン当たりの輸入価格は、26万7583円（前年同月比7.8%高、前月比20.4%高）であった（図7）。

国・地域別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

中国	21万4333円
（前年同月比3.1%高、前月比7.0%高）	
フィリピン	33万9826円
（同7.2%安、同0.8%安）	
インド	52万3000円
（前年同月輸入実績なし、同57.8%高）	

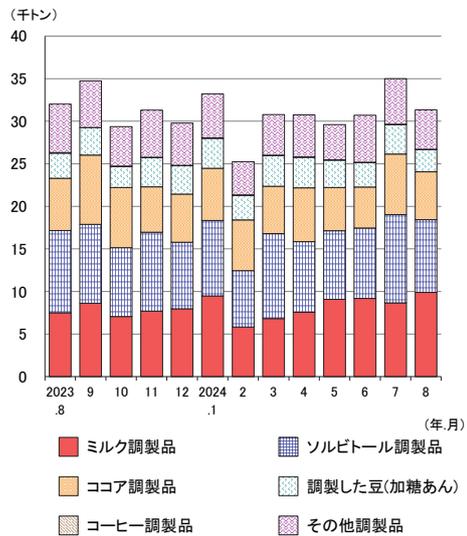
【加糖調製品の輸入動向】

8月の加糖調製品の輸入量は前年同月からわずかに減少

財務省「貿易統計」によると、2024年8月の加糖調製品の輸入量は、3万1337トン（前年同月比2.1%減、前月比10.5%減）であった（図8）。

品目別の輸入量は、表4の通りであった。

図8 加糖調製品の品目別輸入数量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：各品目のHSコードは、次の通り。
ココア調製品：1806.10-110、1806.10-190、1806.20-112、1806.20-113、1806.20-121、1806.20-129、1806.32-212、1806.32-213、1806.90-212、1806.90-213
コーヒー調製品：2101.11-110、2101.11-190、2101.12-111、2101.12-112、2101.12-246
調製した豆（加糖あん）：2005.40-191、2005.40-199、2005.51-191、2005.51-199
ミルク調製品：1901.90-219、2106.90-284
ソルビトール調製品：2106.90-510
その他調製品：2008.99-269、2106.90-590、2101.20-246、2106.90-252、2106.90-253、2106.90-281、2106.90-282、2106.10-219

表4 加糖調製品 品目別輸入量（8月）

（単位：トン）

区分	輸入量	前年同月比 （増減比）	前月比 （増減比）
ミルク調製品	9,892	31.7%	14.3%
ソルビトール調製品	8,540	▲11.6%	▲17.7%
ココア調製品	5,634	▲8.2%	▲20.7%
調製した豆（加糖あん）	2,608	▲11.5%	▲25.1%
コーヒー調製品	33	▲54.8%	2.1倍
その他調製品	4,630	▲18.5%	▲13.5%
合計	31,337	▲2.1%	▲10.5%

資料：財務省「貿易統計」

注：端数処理の関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

3 異性化糖の移出動向

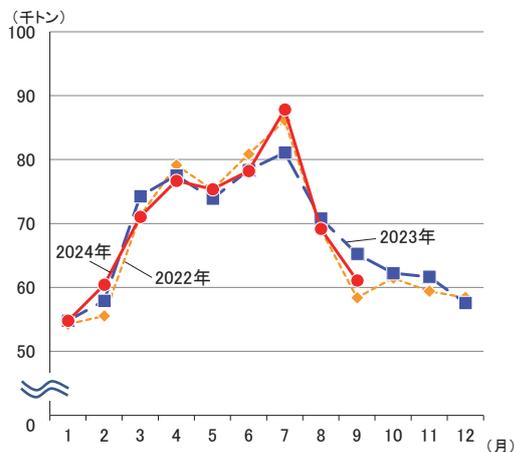
9月の移出量は前年同月からかなりの程度減少

2024年9月の異性化糖の移出量は、6万1098トン（前年同月比6.4%減、前月比11.7%減）であった（図9）。

同月の種類別の移出量は、次の通りであった（図10）。

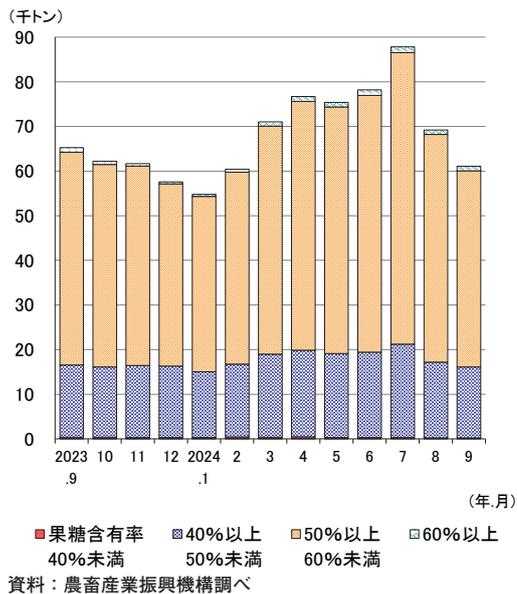
- 果糖含有率40%未満 240トン
（前年同月比37.1%減、前月比3.5%増）
- 同40%以上50%未満 1万5883トン
（同2.0%減、同6.4%減）
- 同50%以上60%未満 4万3945トン
（同7.7%減、同13.9%減）
- 同60%以上 1029トン
（同0.3%増、同6.7%増）

図9 異性化糖の移出量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図10 異性化糖の種類別移出量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

4 価格動向

【市場価格】

異性化糖は前月後半から3円程度値上がり

9月の糖種別・地域別の砂糖価格（日経相場）は、次の通りであった。

上白糖（大袋）

東京 1キログラム当たり249～251円

大阪 同249～251円

名古屋 同252円

関門 同254円

上白糖（小袋）

東京 1キログラム当たり261～265円

大阪 同264～265円

本グラニュー糖（大袋）

東京 1キログラム当たり254～256円

大阪 同254～256円

名古屋 同257円

ビート・グラニュー糖（大袋）

東京 1キログラム当たり249～251円

大阪 同249～251円

名古屋 同250円

9月の異性化糖の価格（日経相場、大口需要家向け価格、東京、タンクローリーもの、JAS規格品、水分25%）は、次の通りであった。

果糖分42%もの

1キログラム当たり166～169円

果糖分55%もの 同172～176円

【小売価格】

9月の上白糖小袋の地域間の価格差は最大で55.5円

KSP-POSデータ（全国501店舗）によると、スーパーにおける9月の上白糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、261.5円（前年同月差23.7円高、前月差0.7円高）であった。最も高かったのは中国・四国で、最も安かった関東などとの価格差は55.5円であった。

同月の地域別^(注)の平均小売価格は、次の通りであった（表5）。

(注) 地域の内訳は、次の通りである（以下同じ）。

関東など：茨城県、栃木県、群馬県、長野県、山梨県、静岡県

首都圏：東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県

中部：新潟県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、三重県、愛知県

関西：大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、和歌山県、奈良県

表5 上白糖の地域別平均小売価格（9月）

地域	平均価格	前年同月価格差	前月価格差
北海道	291.7	40.4	1.0
東北	286.6	33.2	6.5
関東など	238.1	14.6	▲0.0
首都圏	249.4	18.9	0.2
中部	248.3	24.6	0.6
関西	245.1	15.6	1.2
中国・四国	293.6	29.9	▲1.9
九州・沖縄	251.1	15.4	▲1.7
全平均	261.5	23.7	0.7

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：KSP-POSデータ〈全国501店舗〉）

注1：価格は、消費税抜きの価格である。

注2：平均価格は、店舗別商品別の最高価格の単純平均である。

注3：前年同月価格差および前月価格差は、KSP-POSデータ内における価格差である。

9月のグラニュー糖小袋の地域間の価格差は最大で77.2円

KSP-POSデータ（全国501店舗）によると、スーパーにおける9月のグラニュー糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、318.8円（前年同月差28.3円高、前月差0.4円高）であった。最も高かったのは東北で、最も安かった関西との価格差は77.2円であった。

同月の地域別の平均小売価格は、次の通りであった（表6）。

表6 グラニュー糖の地域別平均小売価格（9月）

地域	平均価格	前年同月価格差	前月価格差
北海道	301.9	43.9	0.3
東北	354.0	29.3	4.2
関東など	303.9	14.4	1.6
首都圏	329.8	21.7	▲0.3
中部	326.5	31.3	▲0.0
関西	276.8	21.0	▲0.1
中国・四国	347.9	37.1	▲0.6
九州・沖縄	305.5	25.0	0.3
全平均	318.8	28.3	0.4

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：KSP-POSデータ〈全国501店舗〉）

注1：価格は、消費税抜きの価格である。

注2：平均価格は、店舗別商品別の最高価格の単純平均である。

注3：前年同月価格差および前月価格差は、KSP-POSデータ内における価格差である。

9月の三温糖小袋の地域間の価格差は最大で66.7円

KSP-POSデータ（全国501店舗）によると、スーパーにおける9月の三温糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、303.9円（前年同月差25.5円高、前月差0.4円高）であった。最も高かったのは中国・四国で、最も安かった関西との価格差は66.7円であった。

同月の地域別の平均小売価格は、次の通りであった（表7）。

表7 三温糖の地域別平均小売価格（9月）

（単位：円/kg）

地域	平均価格	前年同月価格差	前月価格差
北海道	318.1	25.9	▲ 0.9
東北	339.4	41.7	5.3
関東など	280.3	27.1	0.3
首都圏	287.2	17.6	0.3
中部	309.6	28.7	▲ 0.1
関西	273.8	12.5	0.5
中国・四国	340.5	30.3	▲ 1.9
九州・沖縄	286.9	28.9	0.0
全平均	303.9	25.5	0.4

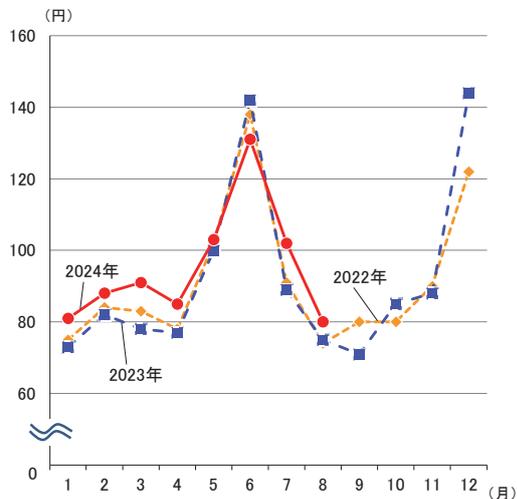
資料：農畜産業振興機構調べ（原典：KSP-POSデータ（全国501店舗））
 注1：価格は、消費税抜きの価格である。
 注2：平均価格は、店舗別商品別の最高価格の単純平均である。
 注3：前年同月価格差および前月価格差は、KSP-POSデータ内における価格差である。

【支出金額および購入数量】

8月の砂糖の支出金額は前年同月からかなりの程度上昇

総務省「家計調査」によると、2024年8月における100世帯当たりの砂糖の購入頻度は27回、1世帯（二人以上）当たりの支出金額は80円（前年同月比6.7%高、前月比21.6%安）であった（図11）。また、同月の1世帯当たりの砂糖の購入数量は、269グラム（同9.3%増、同4.9%減）であった（図12）。

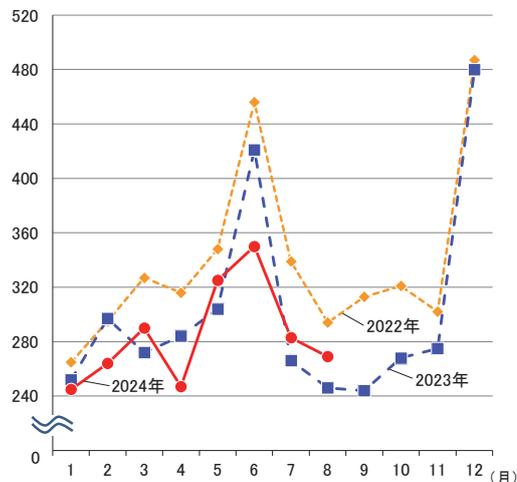
図11 1世帯当たりの砂糖に係る支出額の推移



資料：総務省「家計調査」

図12 1世帯当たりの砂糖の購入数量の推移

（グラム）



資料：総務省「家計調査」